

## 株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 3月

基準日 定時株主総会 12月31日  
剰余金の配当 期末 12月31日  
中間 6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先・照会先 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号(〒541-8502)  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話(通話料無料) 0120-094-777

公告の方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。  
(<http://www.daiichi-seiko.co.jp>)  
ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

### (ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求、配当金の振込指定、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



## 第55期 年次報告書

平成29年1月1日～平成29年12月31日

## 第一精工株式会社

▶ 株主・投資家情報ページ

ホームページのご案内

<http://www.daiichi-seiko.co.jp>

第一精工

最新のトピックスをはじめ、業績報告や会社情報などをわかりやすくご案内してまいります。

The image shows three overlapping screenshots of the Daiichi Seiko website. The largest screenshot on the left displays the main homepage with a 'SENSOR-FUTURE' banner and various navigation links. The middle and right screenshots show the '株主・投資家情報ページ' (Shareholder/Investor Information Page) with a search bar and a '検索' (Search) button.

# 500億の壁を突破 ダントツ商品が業績を牽引し 新たな成長ステージへ

代表取締役社長 小西 英樹



## Q 第55期(平成29年12月期)の業績について

### すべてのセグメントが好調に推移し、過去最高の売上高を達成

まず、電気・電子部品事業では、アンテナ用超小型RF同軸コネクタがIoT分野における新たな無線通信需要の取り込みにより伸長したほか、細線同軸コネクタはノートパソコンのパネル接続向けが好調でした。FPC/FFCコネクタもゲーム機やスマートフォン向けに順調に推移しましたが、特にBoard to Boardコネクタは、高周波ノイズ対策フルシールドコネクタが大きく売上を伸ばしました。HDD関連部品は、サーバーやゲーム機向けにHDDの需要が堅調だったことを受け、順調でした。このほか、トルクセンサ「エストルク」が安川電機様のロボット向けに量産供給をスタートし、業績に貢献し始めました。

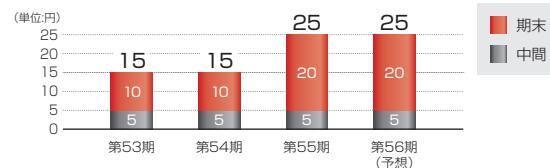
次に、自動車部品事業は、北米や中国での自動車販売が引き続き堅調に推移したことから、車載用センサ等の電装部品も高水準の受注が継続しました。また、カーエレクトロニクスの進展によりLED

ヘッドライト等に使用されるSMTコネクタも採用車種の拡大が続いたことから伸長し、自動車部品事業の売上レコードを第55期も更新することができました。

設備事業は、メモリを中心に半導体市場が活況を呈する中、半導体メーカーの設備投資意欲も高まっており、樹脂封止装置や金型等の受注が大幅に伸びました。

以上のようにフルシールドコネクタやエストルクといった「ダントツ商品」の業績への寄与もあり、すべてのセグメントでビジネスが順調だったことから、売上高519億円と初めて“500億の壁”を突破し、更に営業利益26億円、経常利益25億円、親会社株主に帰属する当期純利益16億円と利益面でも前期から大幅増益を達成することができました。この結果と今後の事業拡大に向けた投資や財政状況等を考慮のうえ積極的な株主還元を実現するべく、期末配当金を1株当たり20円と前期に比べて10円増配し、中間配当を含む年間配当金を25円とさせていただきます。

## 配当金の推移



業績ハイライト	
売上高	51,925百万円 (前期比13%▲)
営業利益	2,604百万円 (前期比6倍▲)
経常利益	2,509百万円 (前期比3倍▲)
親会社株主に帰属する当期純利益	1,667百万円 (前期比10倍▲)

## Q 第56期(平成30年12月期)の重点戦略について

### 「ダントツ商品」が業績を牽引、新たな成長ステージへ向けた備えを進める

第53期より、各事業における将来の売上の2割以上を稼ぎ出すような未来の看板商品である「ダントツ商品」の取り組みを進めてきましたが、第55期は期待どおり業績に貢献し、今後が楽しみな展開になってきました。第56期は以下の取り組みを進めます。

#### 電気・電子部品事業

IoTの進展によりあらゆるモノで無線通信機能の搭載が進み市場が拡大すると見込まれることから、アンテナ用超小型RF同軸コネクタの増産体制を整え、拡販に注力します。また、パソコン、モバイル機器、サーバー、TV等のほか、医療、ロボット、車載等の分野でも処理データの大容量化に伴い、機器内のデータ伝送の高速化が進むと予想されることから、細線同軸コネクタをはじめとする高速伝送対応コネクタの拡販に努めます。併せて、高速伝送時のノイズ対策のニーズに応えるためフルシールドコネクタのラインアップ拡充にも力を入れます。HDD関連部品は、顧客ニーズである海外での生産・供給体制の確立を進めます。また、トルクセンサ「エストルク」は、量産ロボットへの搭載実績を足掛かりにロボットメーカーや医療介護サービス分野、産業機械分野への拡販を進めます。

#### 自動車部品事業

自動車の生産台数が堅調に推移すると見込まれますので、車載用センサをはじめとする電装部品の需要も引き続き高い水準を保つと予想されます。車載用センサは次期モデルの立上げにも注力し、LEDヘッドライト向けをはじめとする車載用コネクタも更なる拡販に努めます。また、自動車の電動化や自動運転支援システムの普及により新たな部品需要が拡大することが見込まれますので、組織を再編し、電子機器の分野で培ったコネクタとLEDヘッドライト向けをはじめとする車載用コネクタのノウハウを融合して新製品の開発を強力に推進する体制としました。併せて、今後の事業拡大に備えるため国内外で開発・製造拠点の拡充も進めます。既にマレーシアで建設中の新工場は、今年10月の完成を予定しているほか、上海技術センター、本社工場などのプロジェクトが進行中です。これらの取り組みにより、自動車ビジネスの最大化を目指します。

#### 設備事業

市場ニーズの拡大が見込める超薄型成形技術の開発、試作を継続し、開発成果を樹脂封止装置や金型等にフィードバックして市場投入する取り組みに引き続き注力します。また、半導体で培った成形技術をコネクタや自動車部品など他の分野に応用して、新規ビジネスの開拓にも継続して取り組みます。

#### 新規事業

昨年11月にMEMS匂いセンサの開発を発表しました。従来、人に頼っていた食品、飲料や化粧品品の感応検査などへの置き換えが期待されるほか、新たなニーズ、例えば果物の食べごろを測定するなど、私たちが想像していなかったニーズもありそうです。今年はそういったニーズにしっかりお応えできるよう、ユーザーとの実証実験により製品化を進めます。

また、今年1月にはMEMS超音波センサの開発を発表しました。このセンサは、超音波素子と以前発表したMEMSミラーデバイスの技術を応用した三次元駆動機構を\*業界で初めてウェハ上に一体で作製することで、三次元駆動センサとしては\*業界最薄の厚さ0.48mmを実現しています。今後ロボットやドローンなどの障害物検知や人感センサなどへの利用が期待されます。

\*当社調べ

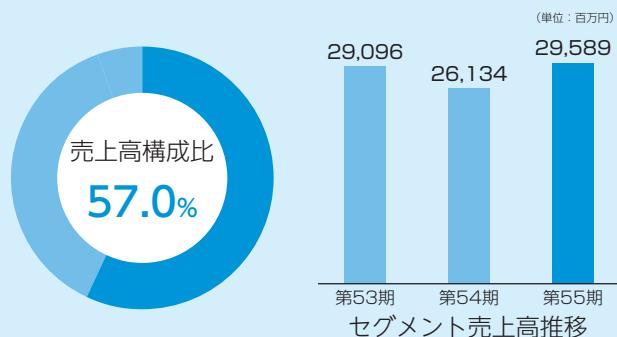
これからも新たな「ダントツ商品」を生み出し、育て、それらが業績の牽引役となって当社を次の成長ステージへと導くよう、積極的な研究開発と投資に引き続き取り組み、企業価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様には今後とも当社グループへのご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

## 来期計画

売上高	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
<b>551</b> 億円	<b>32</b> 億円	<b>22</b> 億円

電気・電子部品事業



より正確に、より緻密に。  
「つなぐ技術」がここにはあります。

コネクタ及び同関連部品

主にスマートフォンやタブレットなどポータブル電子機器向けにコネクタ(接続部品)を開発・製造し、世界市場に展開しています。最先端技術や規格に適合するコネクタをいち早く開発して市場をリードすることに力を入れており、Thunderbolt™3やUSB3.1 Type-Cなどの規格を採用する高性能電子機器にも当社のコネクタが多数採用されています。この他にもIoT、自動車、医療機器やロボット、ドローンなど幅広い市場において高速伝送ソリューションでお客様のニーズにお応えします。

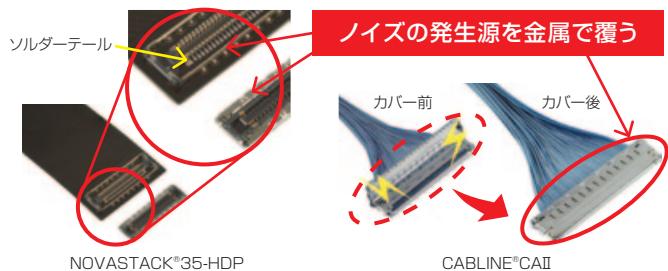


イメージ

**未来のダントツ**

高速伝送対応フルシールドコネクタの採用拡大

**\*業界初! 高周波ノイズをシャットアウト**



電気信号の高速伝送時の高周波ノイズがWiFiアンテナなどに干渉する“電磁障害”の課題をソルダーテール(基板接合部)までもを覆うフルシールド構造で解決。ノートPCやモバイル機器で採用が進んでいます。今後、さまざまな機器で高速伝送ニーズの広がりとともに高周波ノイズ対策が必要になると見込まれるためラインアップの拡充も進めています。

\*当社調べ

**未来のダントツ**

**\*世界初! 静電容量型トルクセンサ**

Electrostatic Capacitance Torque Sensor  
**ESTORQ™**

**「エストルク」の量産供給がスタート**

トルクセンサ“ESTORQ™(エストルク)”は、回転動作時のトルク(ねじり力)を検出して制御するためのセンサです。2017年6月から株式会社安川電機様がエストルクを搭載した人協働ロボット HC10(安全柵なしで人と協働して作業できるロボット)の販売を開始しました。各種ロボットのほか産業用機械にもニーズが広がっています。

\*当社調べ

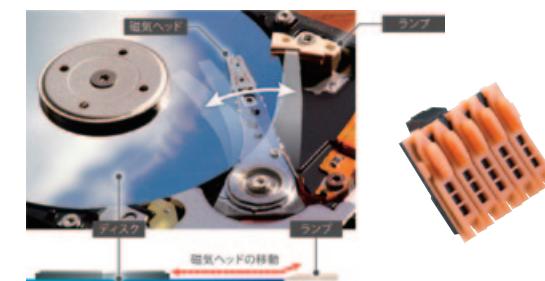


人協働ロボット HC10

HDD用機構部品

データセンターのサーバーやゲーム機などの記憶装置として、大容量化が進むHDD(ハードディスクドライブ)には今後も根強い需要が見込まれています。当社は、お客様との共同開発により世界で初めて量産化した超精密樹脂部品ランプなど、HDDに不可欠の機構部品を供給しています。

ランプは、ディスクの回転停止時や、大きな振動が生じた際にディスク面が接触により傷つくことを防ぐため、データを読み書きする磁気ヘッドを待機格納させる部品です。

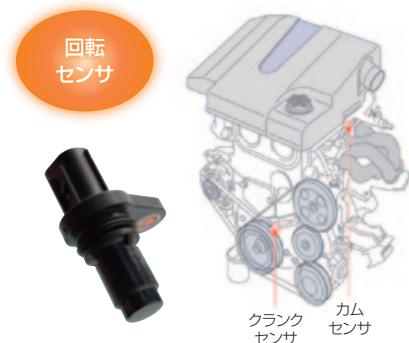


自動車部品事業



クルマは今や、電子機器の集合体といっても過言ではありません。安全かつ快適な走行のために過酷な条件下でも高い性能を保つ高感度センサが必需品となっています。また、衝突回避支援システムや自動運転技術の導入に伴い更に電子制御化が進むクルマには他の電子機器同様、コネクタ(接続部品)などの電子部品が多数使用されています。当社は、センサやコネクタをはじめ制御ユニットなど、精密金型と生産技術を駆使したさまざまな部品を供給しています。

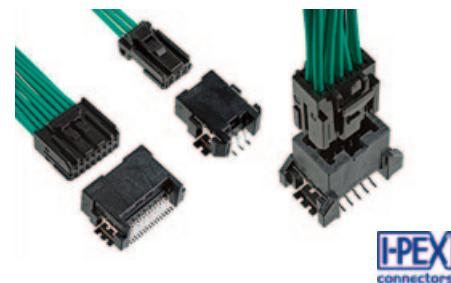
各種センサ



エンジンのクランクやカムの回転角と速度を検出し、点火タイミングや燃料噴射の制御に利用することでCO<sub>2</sub>の排出抑制や燃費向上などに貢献するセンサ。このほか吸気圧センサや車輪速センサなどクルマの制御に欠かせない部品を供給しています。

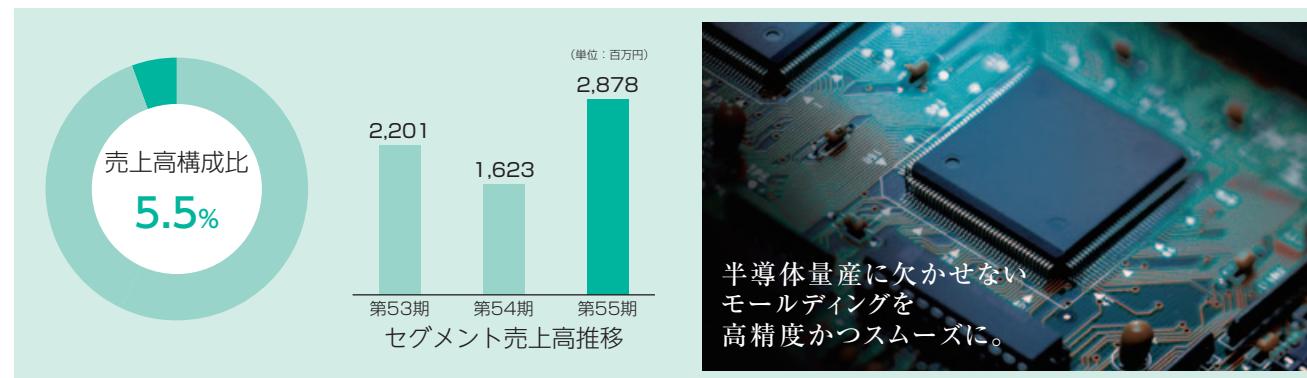
高温125℃対応 熱と振動に強いSMTコネクタ LEDヘッドライトへの採用が拡大

本体BOX部に高強度の内蔵パネを組み込むことで、高い接続信頼性を実現。



ISHシリーズ

設備事業



1980年、当社は精密金型技術を活かし、世界で初めて全自動半導体樹脂封止装置を発売しました。以来、国内外のお客様に装置を納入しながら技術の向上を図り、現在では半導体製造関連装置、シリコン樹脂成形装置、樹脂成形周辺機器なども供給しています。大判化、薄型高密度などお客様のさまざまなニーズにこれまで培った独自のソリューションでお応えし、PC、モバイル、車載、LEDなどの幅広い業界で実績と信頼を積み重ねています。

半導体生産工程

半導体ができるまで



事業 TOPICS

自動車関連ビジネスの拡大に向けた取り組み

カーエレクトロニクスの進展によりセンサやコネクタ等の需要が拡大することが見込まれるほか、電子機器向けコネクタや樹脂成形技術などの分野でも自動車関連ビジネスのニーズが拡大すると予測されることから、国内外で工場増設計画を進めています。2018年10月には、建築面積1万4千㎡(現工場の3倍)のマレーシア新工場が完成予定です。



完成イメージ

## 2種類のMEMSセンサの開発を発表

### 匂いセンサ

\*圧電薄膜に感応膜を塗布した7種類の検知素子により匂いを識別するセンサ。水晶発振子を使う従来方式と比べ、小型化や低コスト化が見込めるほか、用途に応じて検知素子の組み合わせを変えることでさまざまな種類の匂いを識別することが可能です。各種ロボットへの搭載や工業、農業、食品、医療介護分野等、幅広い用途への応用に向け実証実験を進めています。

\*圧電薄膜（チタン酸ジルコン酸鉛：PZT）



プロトタイプ

### 超音波センサ

超音波素子を傾ける駆動機構を備えたセンサとして\*業界最薄となる厚さ0.48mmを達成。圧電薄膜を用いてウェハ上に素子とミラーデバイスによる駆動機構を\*業界で初めて一体的に作製することで、従来方式の後付け駆動機構を必要とせずに検知範囲を三次元方向に拡大し、センサの小型化も実現しました。車載用途への展開も視野に製品化を進めています。

\*当社調べ



## 事業所ネットワーク





**POINT** 初めて500億円を突破し過去最高売上を達成。各区分利益も前期比大幅な増益となった。

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	当期	前期
	平成29年12月31日現在	平成28年12月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	30,106	31,094
固定資産	34,823	28,081
有形固定資産	32,869	26,710
無形固定資産	369	378
投資その他の資産	1,583	992
資産合計	64,929	59,175
<b>負債の部</b>		
流動負債	11,144	9,112
固定負債	6,908	5,381
負債合計	18,052	14,494
<b>純資産の部</b>		
株主資本	45,637	44,199
資本金	8,522	8,522
資本剰余金	8,067	8,046
利益剰余金	29,047	27,630
自己株式	△ 0	△ 0
その他の包括利益累計額	1,171	384
非支配株主持分	67	96
純資産合計	46,877	44,681
負債純資産合計	64,929	59,175

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当期	前期
	平成29年1月1日から平成29年12月31日まで	平成28年1月1日から平成28年12月31日まで
売上高	51,925	45,834
売上原価	36,343	33,717
売上総利益	15,582	12,116
販売費及び一般管理費	12,978	11,715
営業利益	2,604	401
営業外収益	498	602
営業外費用	593	202
経常利益	2,509	800
特別損失	261	84
税金等調整前当期純利益	2,248	716
法人税等合計	587	550
非支配株主に帰属する当期純利益(△は損失)	△ 7	8
親会社株主に帰属する当期純利益	1,667	157

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当期	前期
	平成29年1月1日から平成29年12月31日まで	平成28年1月1日から平成28年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,805	4,535
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,547	△ 6,400
財務活動によるキャッシュ・フロー	792	497
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 110	△ 392
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 3,059	△ 1,759
現金及び現金同等物の期首残高	10,964	12,724
現金及び現金同等物の期末残高	7,905	10,964

株式の状況

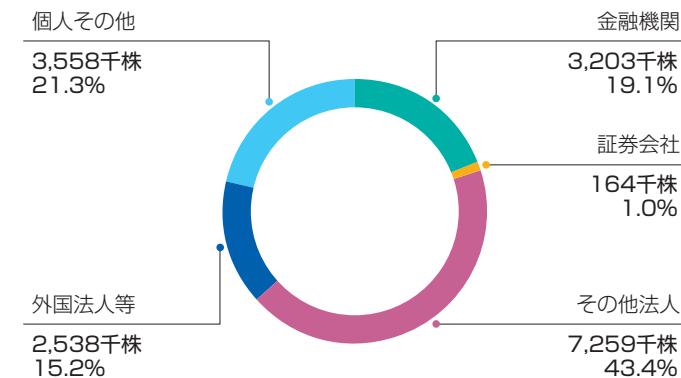
（平成29年12月31日現在）

発行可能株式総数 20,000,000株  
 発行済株式の総数 16,722,800株  
 株主数 3,573名  
 大株主（上位10名）

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ディー・エム・シー	7,200,300	43.05
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,086,700	6.49
第一精工従業員持株会	665,780	3.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	663,300	3.96
小西英樹	498,200	2.97
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	279,000	1.66
GOVERNMENT OF NORWAY	264,500	1.58
小西達也	240,000	1.43
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	220,900	1.32
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	207,751	1.24

所有者別株式分布状況

（平成29年12月31日現在）



会社概要

（平成29年12月31日現在）

商号 第一精工株式会社  
 設立 昭和38年7月10日  
 本社所在地 〒612-8024 京都市伏見区桃山町根来12番地4  
 資本金 85億2,269万円  
 従業員数 単体:1,960人 連結:6,184人  
 主要取引銀行 京都銀行、三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行

役員

（平成30年3月29日現在）

代表取締役社長 小西英樹  
 常務取締役 土山隆治  
 常務取締役 緒方健治  
 常務取締役 原田隆  
 常務取締役 田籠康利  
 取締役 後藤信明  
 取締役 原昭彦  
 取締役(監査等委員) 橋口純一\*  
 取締役(監査等委員) 庭野修次\*  
 取締役(監査等委員) 中田均\*  
 \*(社外)